



TOYOTETSU

環境報告書 2019

環境にやさしいものづくりで世界をリード

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



豊田鉄工株式会社



1 目次

1. 目次・編集方針	1
2. トップメッセージ	2
3. 環境にやさしいトヨテツ	3
プロダクト	
①ボデー部品の軽量化	
②小型モビリティー	
③ベビーリーフ	
4. 特集	
1 : CO ₂ 削減状況	6
2 : トヨテツの森での	7
自然共生プログラム	
5. 低炭素社会に向けた取組み	8
ランクアップ活動	
6. 循環型社会に向けた取組み	9
7. マネジメント	10
国内外事業体環境活動紹介	
8. 環境マネジメント	
環境方針と取組みプラン	11
第4次トヨテツグループ	12
環境取組みプラン	
9. 2018年度取組み結果	
1 : 環境取組みプラン結果	13
2 : 環境月間の取り組み	14
3 : INPUT/OUTPUT	15
4 : 環境会計	15
10. 第三者保証	16

編集方針

トヨテツ環境報告書は、トヨテツの環境保全活動について広く社会に発信することを目的に発行しています。

報告対象範囲

豊田鉄工(株)および連結対象の関連会社
※グラフ、表のデータは豊田鉄工本体のものを示す

報告対象期間

2018年4月1日より2019年3月
31日までの活動を報告

参照ガイドライン

環境省発行
『環境報告ガイドライン』

発行時期

2019年9月

会社概要

会社名 **豊田鉄工株式会社**
TOYODA IRON WORKS CO.,LTD.

代表者名 岩瀬 次郎

所在地 本社 豊田市細谷町4-50

創立 1946年(昭和21年)2月27日

主な事業 自動車部品製造

2トップメッセージ

一人ひとりが意識を持ち行動 2025年 CO₂半減

世界各地で発生している自然災害は、その要因の一つがCO₂などによる地球温暖化の影響と言われており私たちが解決しなければならない課題は山積みしております。

トヨタグループでは、車両の軽減化やEV化等、環境にやさしい製品開発に取り組んで参りますが、その製造工程においてPQの例のように環境負荷が高くなる場合もある為、日頃のCO₂低減活動に加え画期的な新技術へのチャレンジも必要と考えております。

自然共生については、トヨタの森に代表される、生物多様性保全は継続していきますが、森林資源の保護という観点でペーパーレスの強化にも取り組んでいただき、働き方改革にもつなげてまいります。

最後に、近隣との関係についてですが、地域住民や地域社会との共存は企業存続の大前提です。工場敷地境界での騒音・振動・大気・悪臭測定値の基準を守り、環境有害物質の敷地外流出防止の体制をしっかりと構築していく下さい。

また、日頃から近隣の方たちと良好なコミュニケーションがとれるようにし、何でも情報が入ってくる関係づくりを行っていきます。

トヨタグループスローガン

「一人ひとりが意識を持ち行動 2025年
CO₂半減」のもと、一緒に活動して行きましょう。



豊田鉄工株式会社 取締役社長

岩瀬 次郎

SUSTAINABLE GOALS

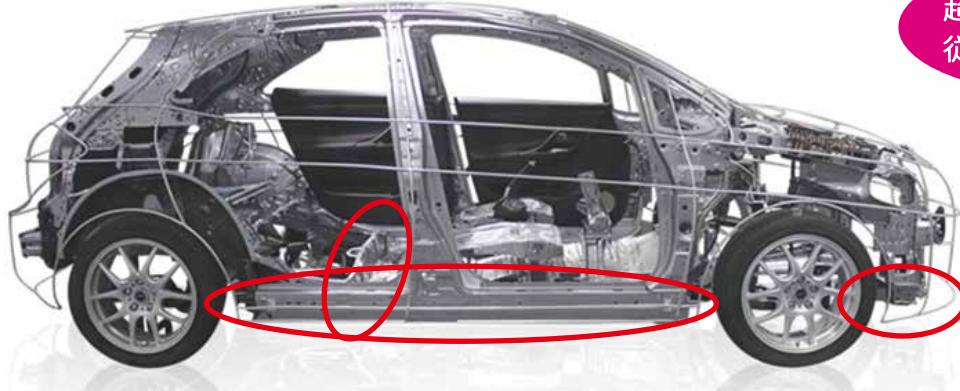


3 環境にやさしいトヨタプロダクト

①ボデー部品の軽量化



中空化技術、構造最適化によりシャシー部品の計量化に貢献



超ハイテン化により
従来品より▲15%



走行時の CO₂ 低減に貢献
3,484t-CO₂ 削減
(2018 年度実績)

鋼板関係部品・シャシー

中空化技術・構造最適化によりシャシー部品の軽量化に貢献しています

従来品比較
33%
軽量化



中空軽量ブレーキペダル

薄板 2 枚合せの中空構造で強度・剛性と軽量化を両立し「止まる」ための基本機能を達成。

従来品比較
30%
軽量化



デファレンシャルサポート

パイプを水圧を利用して加工法(ハイドロフォーム)によって成形し軽量化と高剛性を達成。
従来品比較：30%軽量化

従来品比較
15%
軽量化



足解除式パーキングブレーキ

構造の簡素化小型化を推進し軽量化と低コスト化を達成



燃料向上に寄与する軽量化とシャシー部品の「曲がる」「止まる」の機能を満たす強度・剛性を達成するため、高強度材や中空化技術の適用を推進中

従来品比較
25%
軽量化



衝突ブレース

正面衝突時のエネルギーを効率よく分散するためにパイプ曲げ構造にて高効率と軽量化を両立した。

走行時の CO₂ 低減に貢献
372t-CO₂ 削減
(2018 年度実績)

3 環境にやさしいトヨタプロダクト ②小型モビリティ



過度な自動車依存から、公共交通へのシフト



コモビで、公共交通利用の抵抗を低減。
自家用車から公共交通へのシフトを促し、
移動に起因する CO₂ 排出の削減に寄与。



Topics

コモビが 2020 年東京オリンピックで採用されました。



歩行領域EV	
座り乗りタイプ 【2021年】 [発売予定]	車いす連結タイプ 【2021年】 [発売予定]
主な用途 ▽ 荷物が多い時の移動 ▽ 歩行に支障がある方の移動	主な用途 ▽ 大規模施設/観光地での手動車いすの方へのレンタル



トヨタ自動車 6月7日、「メガウェブ」発表資料

3 環境にやさしいトヨテツプロダクト ③ベビーリーフ



農薬を一切使用しない安心安全なベビーリーフ



完全人工光型の植物工場で、農薬を一切使用せず、栄養価の高いベビーリーフを生産しています。

また、クリーンな環境での水耕栽培の為、袋から出した後洗わずにそのまま食べられます。

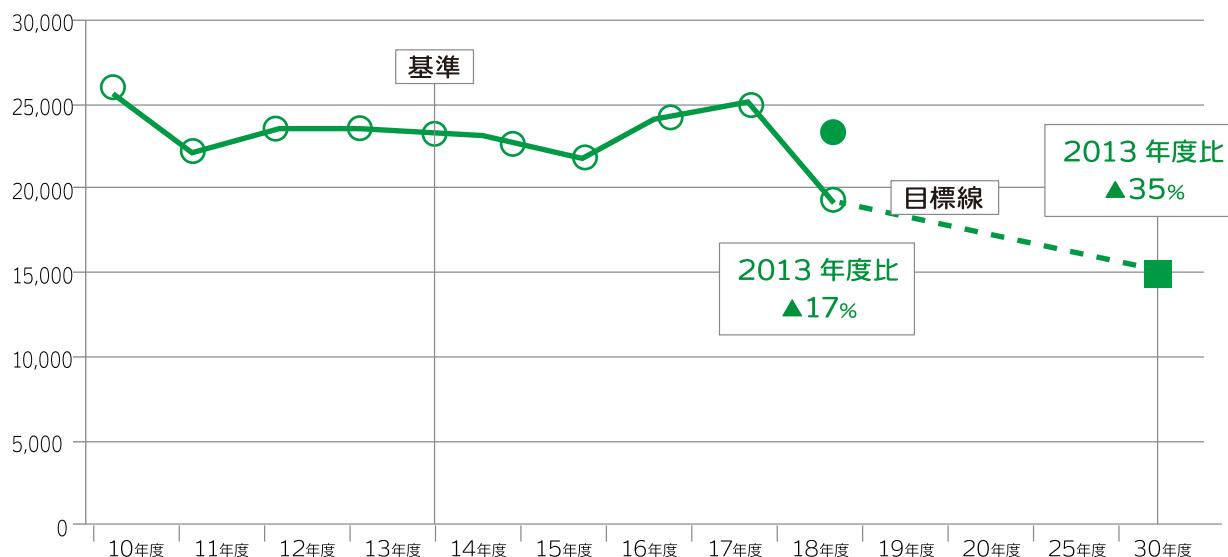


4 特集 1

工場 CO₂ 削減状況



5 工場（アグリ含む）CO₂ 排出量



※18年度換算係数は、シナリオ作成時点での予測値

CO₂排出係数のキヤツ有: 2018年度は0.472 ●印

2050年CO₂排出ゼロに向けて、チャレンジを続けます



4 特集 2

トヨテツの森での自然共生プログラム



従業員とその家族を集め、自然共生に関する教育実施

◆自然共生プログラム紹介

環境講演会で周知
生き物調査&観察ノート作成
バードハウス作り&設置で鳥を呼び込む
木札作成と取り付け
SNSでいいね!を共有
さまざまなプログラム
「トヨテツの森」公式 Facebook
森を訪れた方に生き物調査報告をもらい、いいね!を共有することで、より自分の「庭」として認識を深めてもらう
虫聴き会
森の身体測定
マイバッグ作り
トヨテツの森整備 等
SDGsを達成する人材育成 ESD
QRコード

◆学習小屋設置（自然共生の活動拠点）



◆生き物調査結果

2019年(7月まで) : 昆虫類:146種・鳥類:21種類・その他10種類(2016年比 約1.8倍に増)



◆トヨテツの森で見つかった鳥たち
QRコードで鳴き声視聴



※●●●●HPより引用

5 低炭素社会に向けた取組み ランクアップ活動



ランクアップ活動とは、付加価値を生む生産時のみに最小電力を使う理想の節電の取組みで、エネルギー使用のJust in time。

全ての電源について、運転状態によってA~Hまで8つのランクに分ける計画的に改善を行うことによって、ランクをアップさせていく。各ランクの数を改善の指標とする。使わない時は止める！

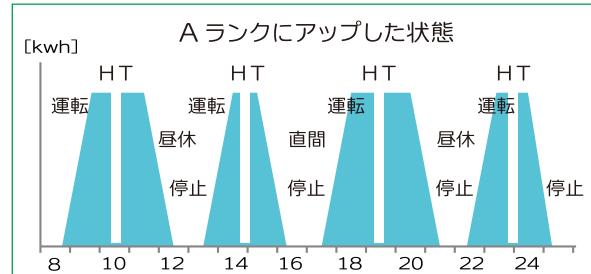
◆ランク表

ランク	条件					
	生産中	ホットタイム	昼休み	直間	休日	長期連休
A	○	×	×	×	×	×
B	○	△	△	×	×	×
C	○	○	△	△	×	×
D	○	○	△	△	△	×
E	○	○	○	△	△	×
F	○	○	○	○	△	×
G	○	○	○	○	○	△
H	○	○	○	○	○	○

全 体	改善前ポイント	改善後ポイント	ランクアップ
実 績	10.748	12.319	1.571
達成率	15%アップ		

※ランクが1つ上がれば1ポイントアップ

◆ランクアップ改善後



◆電力使用推移



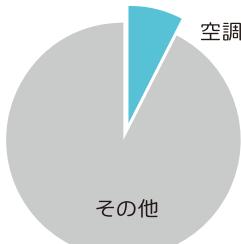
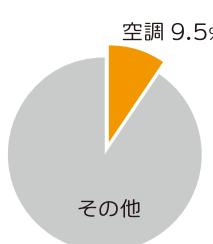
1人ひとりが「ランクアップ活動」止める・切るを実施し、ムダな電力を減らすことに心がけ、省エネ活動に取り組んだ。

空調機器の省エネ(SEACS)



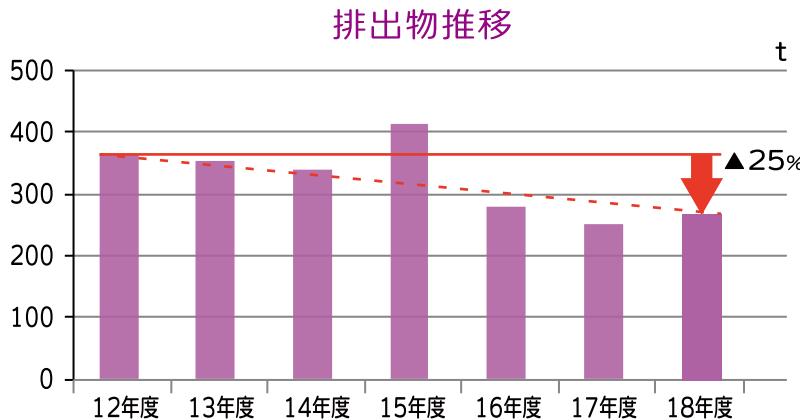
SEACSとは、送風は止めず、冷温風を作る圧縮機を短時間止めることを繰り返して体感温度を変えることなく、省エネを図る室外機あと付け制御装置。

◆定速機タイプ 3分間制御の場合



7.6%に低減
574Mwh低減
CO₂削減量：212.6t/年

6 循環型社会に向けた取組み 生産における排出物の低減



本社	工程内不良率50%目標 実績45.5%
広久手	・溶接スパッタ粉（床ゴミ）の有償化 ・カチオン塗装停止（外注化）による汚泥なし
額田	熱間プレス冷却油の循環使用による 廃油の大幅減
篠原	ダンボールを自治区回収への協力

各工場の日常改善により、2017年度よりは、増加しているものの基準年度より25%低減を達成。

廃棄物“ゼロ”に向けてはまだまだハードルが高い。

バイオマス発電するには、市販の焼却設備では、排出量が少なすぎる。

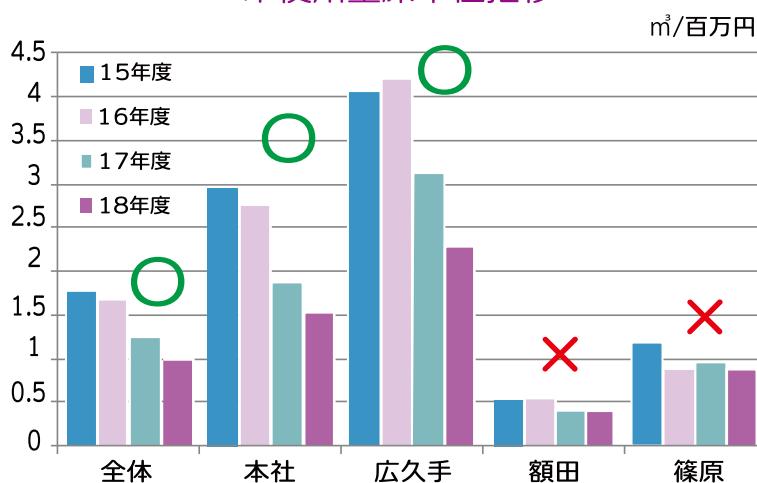
今後は、

- ・自前で設備を開発
- ・協働開発
- ・焼却設備メーカーに委託を検討する。

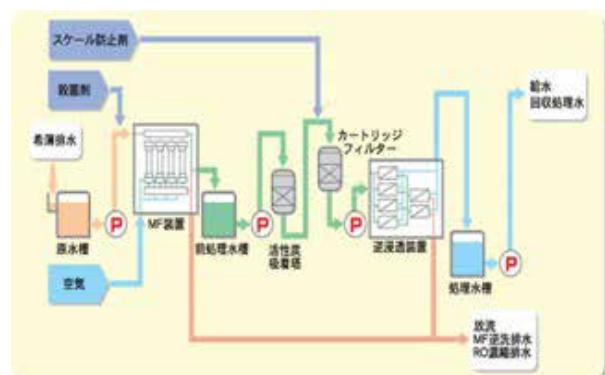
水使用量低減と改善事例



水使用量原単位推移



今後の取り組み



工場排水はきれいにして河川放流
⇒さらに浄化して**再利用**を今後検討

本社	ビオトープ供給の流量管理・調整
広久手	カチオン塗装停止（外注化）
額田 / 篠原	食堂での節水ノズル取付け、 ノズル口数変更など

7マネジメント

国内外事業体環境活動紹介

トヨテツグループは、自然共生社会実現のため、“地域とつなぐ” “世界へつなぐ” “未来へつなぐ” 活動を多様なステークホルダーと一緒に推進しています。



私と世界がつながるトヨテツの森

- Green Wave Project
- 省エネ活動
- エコ交通
- 資源循環
- 自然共生
- 環境負荷低減

- とよた SDGsパートナー
- 豊田市協定協議会

トヨテツ
グループ
従業員

行政

SNS

- Face bookで四季折々の森写真を投稿



トヨテツの
森

専門家等

お客様

地域市民

ビジネス
パートナー

学生

行政

SNS

- ホームページ
- 環境報告書



豊田商工株式会社
トヨテツの森

トヨタ自動車の環境活動を紹介する
冊子です。トヨタの環境活動を学ぶ
機会になります。

豊田市環境センター内
とよたエコライフセンター呼びかけて
ラムサール条約指定矢並湿地の草刈整備参加



- 環境講演会
- EPOC
- よりあい工房ばんどり
- Comodo LABO
- マルベリークラブ中部

お客様

- 樹木自治区
- 近隣小学校
- グリーンテクノピア

- 異常苦情、低炭素活動の
情報共有化



付表 8 環境マネジメント 環境方針と取組みプラン



環境に関する基本方針は、2000年に制定された「トヨタグループ地球環境憲章」のもと、環境に対する取組み方針を「トヨタ環境方針」として定め、国内外事業体18社で共有しています。

こうした方針に基づき、5カ年プラン及び年度計画を立案し、環境法令順守を始めとして全員参加で廃棄物低減、省資源、省エネルギーに取り組んでいます。

トヨタグループ地球環境憲章（基本方針） 2000年制定

トヨタ環境方針

オールトヨタ第6次環境取組みプラン（5カ年）

第4次トヨタグループ環境取組みプラン（5カ年）

年度計画（環境保全推進計画）

第4次トヨタグループ環境取組みプランは、2016年度からの5カ年の活動計画と目標を定めたものです。企業活動における環境の重要取組みテーマを4つに分類し、地球環境と調和したものづくりを通じて、地域社会・地球の持続可能な発展に寄与します。

温室効果ガス排出量の大幅な削減

低炭素社会の構築

部品軽量化開発

工場CO₂排出量低減

物流CO₂排出量低減

3R(Reduce,Reuse,Recycle)を通じた資源循環の推進

循環型社会の構築

リサイクルしやすい部品開発・拡販

排出物の低減と資源の有効活用

水使用量の低減

第4次トヨタグループ 環境取組みプラン

緑化事業の推進

世界へつなぐ環境活動の推進

自然共生社会の構築

地域とつなぐ自然保全活動、未来へつなぐ教育

グローバル社員教育

ビジネスパートナーと連携した環境活動

マネジメント

法令遵守、情報の開示とコミュニケーション

推進体制

2回/年のトヨタグループ環境委員会で、グローバルでの今後の活動についての審議と取組み結果を報告。

トヨタ
グループ
環境委員会

審議

承認

トヨタグループ環境取組みプラン（5カ年）

環境保全推進部会

トヨタグループ年度環境取組みプラン

各部・工場 環境保全推進計画（PDCA）



登録証

登録番号: 10000001

登録期間: 2011年03月23日～2012年03月22日

登録申請の範囲: リサイクルドライバーは問題セミナーに

以上の範囲に適用。適用範囲に該当しない場合は、

該当しない場合は、この登録を解消します。

TOYOTETSU

Environmental Report 2019

付表 8 環境マネジメント

第4次トヨタグループ環境取組みプラン(2016-2020年度)



■ 色：第3次プラン（2011～2015年度）トヨタグループ環境取組みプランからの変更点

● 付：オールトヨタ環境連結取組み（必須）

区分	取組み項目	具体的な実施事項・目など	目標値
低炭素 (気候変動・CO ₂)	1 トップクラスの燃費性能を目指す開発	1) センピラの軽量化によるCO ₂ 低減（ライフサイクルによる積上げ） 2) PKB、B-PEDALの軽量化によるCO ₂ 低減（ライフサイクルによる積上げ）	5,057 t-CO ₂
	2 物流活動における輸送効率の追求とCO ₂ 排出量の低減	●輸送効率の一層の改善によるCO ₂ 低減活動の推進（徹底した総走行距離の低減）	15年度実績比5%
	3 エコ交通の推進	グローバルでのエコドライブ普及推進とエコ交通への切替え推進	計画の達成
	4 生産活動におけるCO ₂ 排出量の低減	●1) 低CO ₂ 生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO ₂ 低減活動の推進 ・生産性向上の追求、オフィス等も含めた活動の展開	15年度実績比8%低減
		2) 環境にやさしいPQの導入（既存のものは改善）	計画の達成
		●3) 各国、各地域の特性を考慮したクリーンエネルギーの活用 ・2020年に向けた段階的な導入推進	計画の達成
		4) 電気使用量原単位低減	15年度実績比10%低減
		5) 地域グリッドエネルギー・マネジメント技術の導入による地域社会への貢献 ①地域最適エネルギー・マネジメントシステムの推進（豊田市元町工場プロジェクトの実証確認～設備導入によるCO ₂ 低減） ②地産地消の工場内熱利用推進	導入検討
循環 (資源・水)	5 生産活動における水使用量の低減	●各国、各地域の水環境事情を考慮し、継続的な水使用量低減活動を推進 ①新工場、ライン改装計画と連動した画期的な取組み ②日常改善など各種取組みによる水使用量低減	15年度実績比5%
	6 資源回収しやすい易解体性の実現	●新技術・新材料部品の易解体構造の開発・織込み・拡販	計画の達成
	7 生産活動における排出物の低減と資源の有効利用	●1) 歩留まり向上等の発生源対策による排出物低減と資源の有効利用促進 ●2) 有価物・廃棄物の発生量低減等、資源ロス低減活動の推進	15年度実績比5%
自然共生	8 各事業所・各地域の活動を“地域とつなぐ”自然保全活動の推進	●自然保全の活動を地域とつなぐ これまでのサステナブル・プラント活動の継続と、オールトヨタのさまざまな活動を、海外関連会社や地域へ広げる、ステークホルダーとの連携で活動の輪を広げる。	計画の達成
	9 自然・生物多様性保全を“世界へつなぐ”環境活動の推進	●環境保全・生物多様性保全の活動を世界とつなぐ ・TIWの活動をグローバルに展開	計画の達成
	10 環境活動を“未来へつなぐ”環境教育貢献の強化	●各地域の事業所やフィールドを活用した環境教育を強化し、環境保全活動を未来へつなぐ ・工場の森、事業所の緑・ビオトープなどを活用した地域住民・子供教育をグローバルに拡大していく	計画の達成
	11 緑化事業などによる環境貢献の推進	●1) 緑化事業などを通じた、温暖化・気候変動「適応」貢献 ●2) 計画中の新工場において、自然と共に存し、地域と調和したサステナブル・プラントを具現化	計画の達成 2001年度比CO ₂ 30%低減
	12 連結環境マネジメントの強化推進	●1) 国内外における環境活動の充実による各国、各地域での全事業活動にかかる環境パフォーマンス(CO ₂ 、水など)確保に向けた活動の強化 ●2) 各国、各地域の環境法令遵守と環境リスクの未然防止活動の徹底強化	年度取組み プランにて詳細決定
マネジメント	13 各国、各地域の都市大気環境改善に資する排ガス低減	●各国、各地域の都市環境改善に資する低排出ガス車を着実に導入	
	14 生産活動におけるVOCの低減	塗装工程における塗料、シンナー（トルエン、キシレン等）の低減等VOC低減活動の推進 ・塗装設備改装計画と連動した取組みと日常改善によるVOC低減を継続的に推進	
	15 ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	●仕入れ先との連携を一層強化し、オールトヨタで共に環境を良くする活動を推進 ①CO ₂ 低減、資源循環、水インパクト低減、自然共生社会の構築等、幅広い環境取組みを連携して推進 ②TOYOTAグリーン調達ガイドラインの取組みをオールトヨタに展開	
	16 グローバル社員教育・啓発活動の一層の強化	●グローバルで、従業員への環境教育を通じた環境保全意識の啓発推進 ①国内外事業体と連携した環境教育の推進 ②各国、各地域の実情に合わせた環境教育の実施	
	17 環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実	●1) 環境の情報開示の一層の充実 ①環境情報の収集対象とする事業体の拡大とその仕組みづくり ②環境報告書の更なる内容充実 ●2) グローバル及び各国、各地域での環境のコミュニケーション活動の充実	計画の達成 計画の達成 1回/年 以上

付表
9 2018年度取組み結果
9-1. 環境取組みプラン結果



トヨタは自動車部品の開発・設計、生産、物流のあらゆる段階において、温室効果ガス及び排出物の削減に取り組んでいます。
2016年度からの5ヶ年計画の2年目で、ほとんどの項目で目標達成できてきてまして、年々着実にパフォーマンス向上が図られています。

区分	取組み項目	基準年	主な実施内容	目標値	実績(3月末見込み)	評価	国内事業体			海外事業体		
							目標	実績見込み	評価	目標	実績見込み	評価
低炭素 (気候変動・CO ₂)	1 トップクラスの燃費性能を目指す開発	15年度	・センピラの軽量化	3474t-CO ₂ (520t減)	3484t-CO ₂ (521t軽量化)	●						
		15年度	・軽量化検討	127t-CO ₂ (19t減)	372t-CO ₂ (55.7t減)	●	号口比▲20%	▲30% (TEC)	●			
循環 (資源・水)	2 物流活動における輸送効率の追求とCO ₂ 排出量の低減	17年度	・トラックダイヤの見直し ・車両あたりの積載量を増やす	▲1%	▲2.5%	●	▲1%	▲10% (TEC) ▲1.2% (TTC)	●			
		17年度	・エコドライブの実践 ・環境に配慮した移動手段の実績把握と実践	業務用車CO ₂ ▲1% 実績把握	CO ₂ ▲1% (燃費2%向上)	●	エコドライブ	7%向上 (TEC) 1.4%向上 (TTC)	●	エコドライブ (燃費向上)	啓蒙と実践 燃費悪化 (TTCA, TTID)	●
自然共生 マネジメント	3 エコ交通の推進	17年度	・省エネ活動の推進 ・省エネ設備の開発、導入、推進(からくり設備等)	CO ₂ 原単位 ▲2.8%	▲4.1%	●	▲2.8%	O:TFC, TEC x:TTC	●	▲2.8%	O:7社 △:2社 x:4社	
		17年度	・生産性の向上(頻発停止、不良低減対策など)	▲20% (2020年度末)	21.7%増	—						
マネジメント	4 生産活動におけるCO ₂ 排出量の低減	17年度	・クリーンエネルギーの調査及び導入検討 ・ランクアップ活動の推進・展開 ・省エネ機器の導入 ・工場×生技×環境改善チーム活動で省エネ加速(事業体はTIWの内容を横展)	戦略会議にて提案 電気使用量原単位 ▲2.8%	次年度	●	▲2.8%	O:TEC, x:TFC, TTC	●	▲2.8%	O:6社 △:3社 x:4社	
		17年度	・元町地区熱輸送導入検討 ・排熱の利活用開発	トヨタ殿試行経過確認 導入目処付け	TMCトライ中 熱吸収・排出方法 検討中	●						
自然共生	5 生産活動における水使用量の低減	17年度	・雨水の利用、工場排水利用の為のシステム検討 ・オールトヨタツーリングとなった節水の取り組み	▲1%	▲17.6%	●	▲1%	O:TFC, TEC x:TTC	●	▲1%	O:6社 x:7社	●
		17年度	・接着レス化検討	採用1件以上	採用6件	●						
マネジメント	7 生産活動における排出物の低減と資源の有効利用	17年	・発生源対策及び不良低減による排出量の抑制 ・ペーパーレスの推進 ・廃棄物の有価化検討	▲1%	8.5%増	●	▲1%	O:TTC, TEC O:TTC, TEC	●	▲1%	O:6社 △:1社 x:6社	
		17年	・豊田市及びEPOC各分科会と連携して活動の輪を広げる ・緑化活動、環境美化活動参加	HPに活動を発信	EPOCで各社の ピオトーフ紹介	●						
自然共生	8 各事業所・各地域の活動を"地域とつなぐ"自然保全活動の推進	17年	・トヨタの森生物多様性保全の紹介 ・トヨタの森を活用した教育プログラム実施	各1件以上	各工場1件	●	美化緑化	全社実施	●	美化緑化	全社実施	●
		17年	・ヒートアイランド対応(壁面緑化、高性能遮光塗料の普及拡大) ・新工場は、環境に配慮した工場の建設	1件以上 方策織込み	壁面緑化 自然照明	●						
マネジメント	11 緑化事業などによる環境貢献の推進	2001年度	・国内外事業体の環境パフォーマンス報告(経営会議にて) ・テレビ会議による環境交流会(ランクアップ活動フォロー、情報共有等)	4回/年 実施100%	2回/年 実施100%	●	交流会	全社O	●	交流会	全社O	●
		2001年度	・異常苦情ヒヤリの未然防止活動 ・工場インフラ老朽化による環境異常発生未然防止:危険マップ作りと中長期整備計画先性	異常苦情ヒヤリ0件 実施100%	1件発生 TTC実施	●	0件	全社O	●	0件	全社O	●
マネジメント	12 連結環境マネジメントの強化推進	17年	・国内外事業体の環境法令順守チェック及びフォロー ・製品化学物質に関する各国の規制及び客先規定順守	実施100% IMDS入力不備0件	TV会議と年度まとめ IMDS入力遅れ1件	●	遵守	全社O	●	遵守	TTIH 排水 基準未満	●
		17年	・業務用車(更新車両)の低排出ガス車に切り替え ・VOC低減対策を継続実施	対象車100%	計画8台/切替8台 100%	●	計画	全社O	●	計画	全社O	●
マネジメント	15 ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	17年	・仕入れ先に対する環境パトロールの実施・フォロー ・赴任者環境教育の継続	計画の達成	計画24社/ 実施25社	●	計画達成	全社O	●	計画達成	全社O	●
		17年	・TIWのランクアップ活動とIMDS化学物質管理をグローバルで定着させる	宣教師活動実施	ランクA⇒B IMDS:汎用導入後	●						
マネジメント	17 環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実	17年	・HPのアップデート ・CDPサプライチェーンマネジメント対応 ・環境月間行事、緑化活動、受賞などの特集を入れ込む ・地域への環境取り組み説明	随时アップデート ランクC⇒B 7月発行 1回	EMS適用範囲など ランクB 9月末発行 展示	●	1回	各1回以上	●	1回	全社実施	●

付表 9 2018年度取組み結果 9-2. 環境月間の取組み

1. 家庭でのエコ事例コンテスト



エコな事例名: 家庭での雨水再利用

家庭での活動

雨が降ると、自宅の雨水は雨どいから庭へ流しっぱなしでだけで何も活用していない。



雨水は庭に流している

エコな活動

そこで雨どいの出口に使用していないプラスチック容器を設置し、雨水の貯蔵が出来る様にした。また廃木で壺を作製し、蚊の発生を防止した。

⇒雨水は庭の芝生や畑への水やりに再利用中



雨水貯蔵容器
廃木で壺をし、蚊の発生防止
庭の芝生や畑に

各家庭でエコな活動を実施している事例の紹介をしてもらいコンテストを開催。その事例を他の従業員にも知ってもらい横展開を図る。

TIW の優秀・優良賞は環境委員会で表彰。



2. サステナブルシーフードを食堂で提供



6月27日㈯

**サステナブル
SUSTAINABLE SEAFOOD FAIR
シーフードフェア**

未来にもお魚を食べ続けていくことができるよう、お魚の獲り過ぎや、自然を傷つけることが起らない方法でとられた魚からできた食べ物を「サステナブル・シーフード」といいます。



MSC「海のエコラベル」
水産資源と環境に配慮して
育まれた天然の水産物の証。


自家魚のタルタル丼 ¥200
※¥120

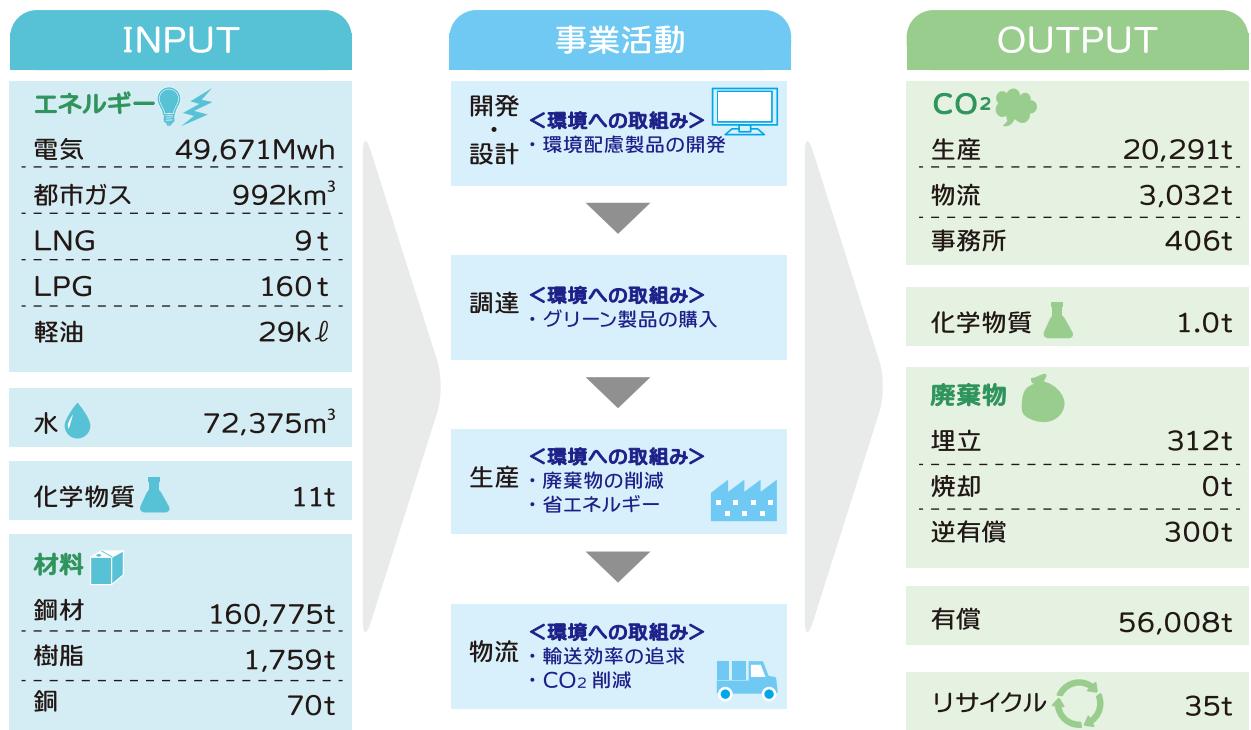

冷やし
汁なし坦々麺 ¥160
※お魚ミンチを使用しています



環境に配慮した漁業の国際的な認証制度、MSC認証の取得した水産資源を使用したサステナブルシーフードメニューを食堂で提供し従業員と学びながら美味しくいただきます。サステナブル（=持続可能）とは、ずっと未来にも続していくということ。将来もお魚を食べ続けていくができるように、水産資源や環境に配慮し適切に管理された漁業で獲られた水産物、あるいは環境と社会への影響を最小限に抑えて育てられた水産物を「サステナブル・シーフード」といいます。

付表 9 2018年度取組み結果

9-3. INPUT/OUTPUT

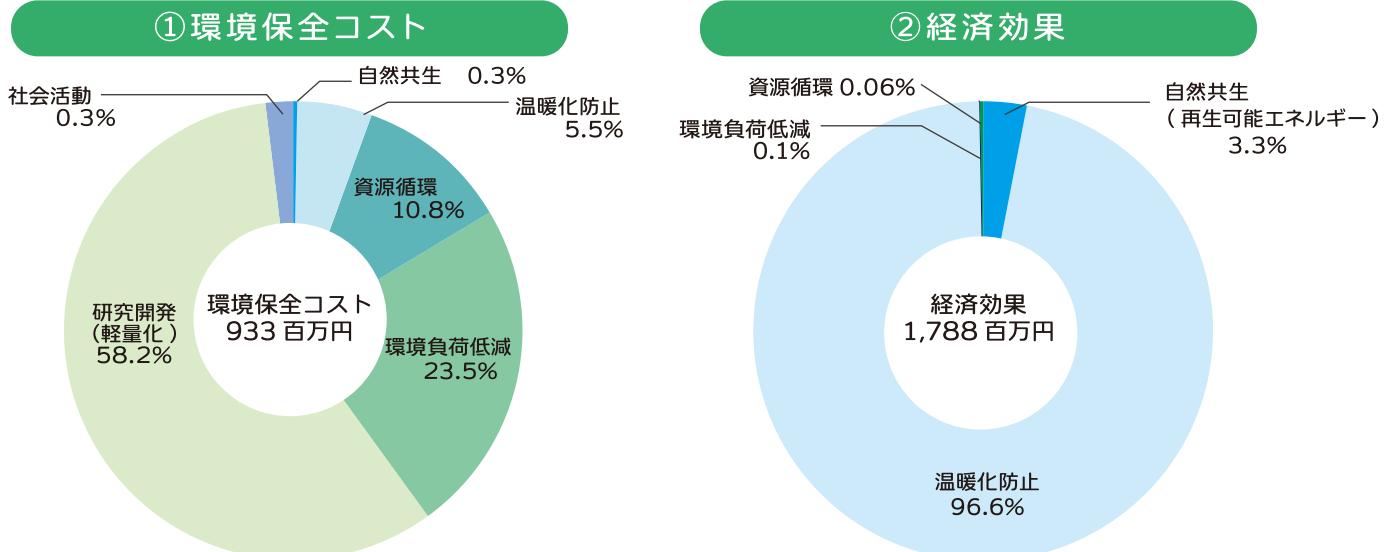


Scope3 カテゴリー別排出量産出

カテゴリー	内 容	t-CO ₂	算出方法
1	購入した製品・サービス	622,728	物量または金額ベースの排出原単位
2	資本財	49,217	重量または販売単位の排出原単位
3	Scope1,2に含まれない燃料	—	該当なし
4	仕入先からの製品の輸送	—	カテゴリー1に含む
	客先への輸送	3,032	燃料法
5	廃棄物	331	廃棄物種類・処理方法別排出原単位
6	出張	1,617	移動に伴う燃料使用量
7	従業員の通勤	2,500	移動に伴う燃料使用量

カテゴリー8～15は該当なし

9-4. 環境会計



10 第三者保証 第三者保証紹介

一般社団法人 中部 SDGs推進センター 副代表
環境省登録 環境力ワンセラーナー
百瀬 則子氏



私は豊田鉄工株式会社の2019年環境報告書の第三者保証のために、本社とトヨテツの森を訪問し、また環境報告書に記載されている内容についてのインタビューを行いました。

2019年環境報告書のトップメッセージには、「一人一人が意識を持ち行動2025年 CO₂ 半減」が掲げられています。

近年、地球環境の劣化や化石燃料由来のエネルギー使用が原因といわれるCO₂などの温室効果ガスによる、気候変動は大きな自然災害を引き起こしています。豊田鉄工は、企業活動から排出されるCO₂を2025年までに半減するという目標を、企業努力だけではなく従業員一人ひとりが意識を高くすることで達成すると宣言しているのです。また、自然環境を守る活動を推進し、更に地域社会とコミュニケーションをとることにより、地域環境貢献を図ることを決意されています。

これらは、2015年に国連で決議し、全世界の目標であるSDGs達成を目指すことであり、その17の目標を環境報告書各ページにも記載しています。

これらの検証を行い、さらに持続可能な社会を目指す活動についてグローバルで実施していることを確認しました。

特集1で報告されている「工場CO₂削減シナリオ」は、自社での部品計量化開発や工場・物流のCO₂排出量低減を図るも、目標には達していないことを示しています。しかし、「ランクアップ活動」や空調機器の省エネを進めることで、目標達成を目指しています。さらに、自社の省エネを改善するインサイドアウト アプローチだけではなく、公共交通機関と新たに開発した小型モビリティ「コモビ」の利用により、地域の課題解決とCO₂削減を同時に解決するアウトサイドイン アプローチというSDGs手法を取り入れています。また、スコープ3を算出し、CO₂発生抑制の対策を検討していることも確認しました。

特集2では、生物多様性を楽しく学ぶトヨテツの森活動で、従業員やその家族と一緒に自然共生社会構築に貢献しています。2013年に本社工場内に作ったトヨテツの森は、様々な生き物が住み、その様子を生き物マップで記録し、森の恵みをいただくことで、人間も自然の一員であることを体験学習するプログラムを展開し、成果を上げていることを確認しました。

また、循環型社会に向けた活動としては、ゼロエミッションを目指して、廃棄物の再生利用化を図る取り組みを推進しています。水使用に関する使用料の削減に取り組み成果を出しています。

さらにグローバル展開している海外拠点では、それぞれの地域で植樹活動を行うグリーンウェーブプロジェクトを継続しています。豊田鉄工から排出されるCO₂を吸収し、その地に生息する生き物を守ることを期待します。

最後に、豊田鉄工の社員がものづくりに関する環境貢献だけではなく、社員食堂で環境配慮して生産されたMSC認証の魚介類や、地産地消の農作物を使ったメニューを食べ、食器の洗浄にも節水栓を使用するなど、一人ひとりの生活面でも環境を意識していることも、確認しました。

これらの確認ができたことにより、2019年環境報告書の内容について、保証いたします。

今後もものづくりの技術と環境貢献、さらに地域に根差した環境保全活動を進め、SDGsを達成する持続可能な社会構築を目指していただきたいと思います。

